

ニューズレター雪氷北信越

No.76 2000年12月10日
(社)日本雪氷学会北信越支部発行

目次

< 案内 >

- ・雪に備える講演会(12/5, 福井市)
- ・黒龍江省雪氷問題研究会定例会(12/8, 長岡市)
- ・新潟・長野地区見学会(1/12, 新潟市周辺)
- ・第11回 雪崩対策の基礎技術研修会(1/17-18, 湯沢町)
- ・雪氷化学分科会 - 雪合宿(2/18-20, 乗鞍高原)
- ・新潟地区積雪調査法講習会(2/24, 長岡市)

< 報告 >

- ・わくわく雪・氷観察塾(8/7, 塩沢町)
- ・新潟地区学習会(10/23, 長岡市)
- ・講演会(10/29, 長岡市)

< 案内 >

雪に備える講演会 「道路と橋面の凍結抑制技術」のお知らせ

福井雪害対策研究会会長 福原輝幸
福井県雪技術研究会会長 竹内正紀
福井県雪対策・建設技術研究所所長 小川一男

秋も深まり、各位におかれてはますますご清栄のことと存じます。

さて、冬の到来にあたって、標記の講演会を開催することになりましたので、ふるってご参加下さいますようご案内いたします。近年暖冬化傾向といわれますが、道路や橋梁では思いがけない場所での凍結危険などがあり、普段からの備えが必要であります。また、対策においては自然熱を利用するなどの今日の要請もあり、それらについての技術的進展を目指しています。

記

主 催：福井雪害対策研究会 / 福井県雪技術研究会 / 福井県雪対策・建設技術研究所

後 援：日本雪氷学会北信越支部

期 日：平成12年12月5日(火) 15:00～17:00

場 所：福井大学地域共同研究センター

プログラム：

15:00 挨拶

15:10 路面凍結の実用的数値シミュレーションと蓄熱材による鋼床版橋の凍結抑制
福井県雪対策・建設技術研究所 主任研究員 宮本 重信

16:00 ヒートポンプを利用した融雪システムの概要と事例紹介
(株)前川製作所 仙台支店 ローカルエネルギー開発室長 佐藤 一義

16:50 質疑応答

参加費：無料

連絡先：〒910-8507 福井市文京3丁目9-1

福井大学教育地域科学部数理教育・物理 伊藤文雄

TEL.:0776-23-0500

〒918-8108 福井市春日3丁目303

福井県雪対策・建設技術研究所 杉森正義

TEL.: 0776-35-2412 Fax: 0776-35-2445

E-mail: m-sugimori-e5@ain.pref.fukui.jp yukitec@mitene.or.jp

注) 北門、東門から自動車は入れません

< 案内 >

黒龍江省雪氷問題研究会定例会のご案内

黒龍江省雪氷問題研究会は、10年ほど前から続いている日本雪氷学会北信越支部の雪氷研究者と中国・黒龍江省交通庁との活発な交流の維持・継続について検討することを目的として1999年に設立されたものです。1999年12月に開催された日本雪氷学会北信越支部理事会において、本研究会は支部活動の一環としてとり行うことが承認されております。つきましては、本年4月の例会に引き続き、下記の通り定例会を開催致しますので、ご関心のある方は奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

1. 日時

2000年12月8日(金) 14:30～15:30

2. 場所

長岡技術科学大学 建設系会議室(機械建設1号棟8階)

長岡市上富岡町1603-1 Tel:0258-46-6000

3. 話題提供

長岡技術科学大学 早川典生

「2000年8月 佳木斯方面への旅と大興安嶺中での積雪調査」

概要：哈爾濱から佳木斯方面の道路、河川事情と三江平原に完成間近の竜頭橋ダムへの旅と、大興安嶺における積雪深計設置計画の紹介をする。

4. 問い合わせ先

黒龍江省雪氷問題研究会事務局

長岡技術科学大学 環境・建設系 早川 典生

Tel:0258-47-9664 Fax:0258-47-9673 E-mail:hayakawa@hydro.nagaokaut.ac.jp

< 案内 >

新潟・長野地区見学会のお知らせ

「道路の除雪とIT技術の応用」- 日交通量 14 万台の除雪体制 -

下記要領にて見学会を行います。今回は建設省北陸地方建設局様のご協力によりIT技術の除雪へ応用など最新の技術を見学します。また、参加者のご希望により工事中の 2002 年サッカーワールドカップ

ブ新潟会場や万代橋下流橋も見学することができます。ご希望の方は下記まで、e-mail または F A X にてご連絡ください。

日 時：2000 年 1 月 12 日（金）13:30～16:00（予定）

集合場所：新潟市周辺（追って希望者の方にはご連絡いたします）

見学箇所：建設省北陸地方建設局新潟国道工事事務所情報管理室、機械除雪基地
万代橋下流橋（工事中）

ピックスワン（サッカーワールドカップ新潟会場）など

連絡先：株式会社 興和 企画開発部 遠藤治郎

Tel.025-281-8818 Fax.025-281-8834 e-mail j-endou@kowa-net.co.jp

または、(株)アルゴス雪氷技術センター 上石 勲

Tel.0255-70-1452 Fax. 0255-72-7606 e-mail kamiisi@argos-net.co.jp

< 案内 >

第 11 回 雪崩対策の基礎技術研修会開催のお知らせ

下記の要領で研修会を実施いたします。学会員以外の関係者にもお知らせ下さい。

開催期日：2001 年（平成 13 年）1 月 17 日（水）～ 18 日（木）

会 場：湯沢カルチャーセンター（新潟県湯沢町）

主 催：社団法人日本雪氷学会

会 費：3 万 5 千円

研修プログラム（予定）

1 日目 9:00 - 受付 室内講義

降積雪と雪崩の基礎知識、雪崩運動のモデル実験、雪崩危険斜面の判定

雪崩対策工の計画・設計、雪崩予知・検知技術

雪崩埋雪者の搜索救助、工事現場における雪崩対策

2 日目 現地研修

雪崩対策工の現地検討、積雪観測法実習、雪崩搜索・救助法実習

閉校式

連絡・問い合わせ先

○研修申し込み

TEL:0257-82-1181 FAX:0257-82-2241 町田建設(株) 担当 田村、松井

○宿泊、交通

TEL:0257-84-3435 FAX:0257-85-5375 JR 東日本びゅうプラザ越後湯沢 担当 中沢

< 案内 >

雪氷化学分科会 - 雪合宿のお知らせ

いよいよ雪の便りが聞こえてくる季節となり、体がウズウズし始めているのではないのでしょうか。

さて、雪氷化学分科会では、今シーズンの行事のひとつとして「雪合宿」を企画しました。これは、

分科会総会の折に、「物理的な積雪調査法は確立されているが、化学分析のための調査手法は、それぞれがバラバラにやっているのではないか」、「是非、実際の雪を前にして検討会をやろう」という意見が出され、それをきっかけとして企画されたものです。

日程と場所は以下のように設定しました。

日程：2001年2月18日（日）～20日（火）

場所：信州大学乗鞍寮（乗鞍高原）

本施設は食事は自炊ですが、温泉と宿泊施設があります。また、乗鞍高原スキー場の近くです。暖房やシーツなどの使用料と食料代などが必要ですが、2泊・2夕食・2朝食・懇親会で5千円ぐらいを予定しています。

具体的な合宿内容（調査実習や検討会など）は検討中ですが、参加してみたいと思われる方は下記まで連絡をください。その際に合宿の内容についての要望などを提案いただければ、できるだけ反映したいと思います。

問い合わせ先：

鈴木啓助 kei@gipac.shinshu-u.ac.jp

〒390-8621 松本市旭3-1-1 信州大学理学部物質循環学教室

Tel: 0263-37-2561 Fax: 0263-37-2560

< 案内 >

2000年度新潟地区 積雪調査法講習会のご案内

[1] 講習題目：積雪調査法

[2] 日時：2001年2月24日（土）9：00～15：30

[3] 会場：長岡市栖吉町前山187-16，科学技術庁長岡雪氷防災実験研究所

[4] 講師：遠藤八十一氏（農水省森林総研）、和泉 薫氏（新潟大学災害研）、
佐藤和秀氏（長岡高専）、山田穰氏、石坂雅昭氏（長岡雪氷防災研）、
河島克久氏（JR総研）、竹内由香里氏（建設省土木研究所）

[5] 日程と講習内容：

AM 8:50～9:20 受付・班分け・昼食（カツ丼）申し込み

AM 9:30～11:30 講義（積雪調査法の概要と測器の説明）

PM 1:00～3:30 野外実習（積雪の層構造と雪質の観察、雪温・密度・積雪相当水量・雪の含水率・雪崩ビーコンなど）

[6] 定員：16名（先着順）（少人数の場合は中止することがあります）

[7] 申込締切り日：2月13日（火）までに、氏名・住所・連絡先・会員種別（正会員・学生会員・団体会員・購読会員・非会員）を郵送またはFAXにて下記へご連絡ください。

[8] 申込先：947-0005 小千谷市旭町7-1，小千谷高校内，田村盛彰

TEL:0258(83)4076，FAX:0258(82)0646，自宅TEL/FAX:0258(33)3820

[9] 参加費：テキスト・実習材料等の実費。（講習当日に領収いたします）

正会員・学生＝2,000円，団体会員・購読会員・非会員＝3,000円

申し込み受付け後、改めて詳細な案内をお届けします。

講習会終了後、後日修了証を交付いたします。

(講習会担当：山田穰・佐藤和秀・田村盛彰)

< 報告 >

わくわく雪・氷観察塾

日 時： 2000 年 8 月 7 日 13:00 ~ 16:30

場 所： 塩沢町公民館他

講 師： 加藤正明（長岡市立科学博物館），遠藤八十一（森林総研・十日町），
納口恭明（防災科研），小林俊市（防災科研・長岡）

河島克久・遠藤徹（鉄道総研・塩沢）

参加者： 20 名

主 催： 塩沢町教育委員会，（社）日本雪氷学会北信越支部

本観察塾は、塩沢町教育委員会が毎年夏休み期間中に、町内の小学校 5-6 年生と中学生を対象として開催している自主的な参加体験学習の場「しおざわのびのび塾」の一環として実施されたものであり、小学生 5-6 年生 20 名が参加した。実施内容は、平松式人工雪発生装置の作製と人工雪の観察、ナダレンジャーとピンポン球なだれ（3 万個）による雪崩の体験学習、残雪のある山の写真から雪形を創造する体験、低温体験（-30 の体験、バナナで釘打ち）、水からかき氷を作って食べる実験（過冷却実験）ともり沢山である。どの体験や実験も、子供たちにとっては未知のものであり、全員、楽しみながら積極的に参加していた。

(河島克久幹事 記)

< 報告 >

新潟地区学習会

話題：都市雪害の定量的評価と除排雪システムの費用対効果について

講師：上村靖司氏（小山工業高等専門学校）

日時：2000年10月23日（月）13：30～15：00

場所：長岡雪氷防災実験研究所

出席者：16名

学習会ではまず、都市雪害を定量的に評価するため、雪害度という手法を導入するに至った経緯について述べられた。そのケーススタディーとして、新潟県長岡市と十日町市における雪害度を求め比較検討した結果、費用を算出する際の地域的特性としては地価が大きなウェイトを占め、同じ地価の地域を比較すると、雪のためにかかる費用は十日町市の方が長岡市の3倍以上、また雪害度は約1.6倍と大きくなった。次に、市街地内の除排雪量の算定を行うために、積雪重量をAMeDASデータを用いて簡便に求める手法について述べられた。また、国土庁の「克雪対策の費用対効果に関する研究会」で検討されている克雪対策の費用対効果の評価方法として、雪害度のほかに“ AHP手法 ”や“ CVM手法 ”についても紹介されたが、いずれも大変興味深い方法であった。講師も指摘されたように、今後各地域に新しい除排

雪システムが導入される場合には、事前にそれらの手法により評価を行う必要がある。特に、流雪溝のように導入後地域住民の協力が不可欠なシステムの場合には、アンケート調査を伴った評価手法も必要であると思われた。本学習会には、研究者だけでなく、長岡、十日町、小千谷、新井の各自治体の除雪担当者も出席された。そして、講演終了後、各自治体が抱えている除排雪に対する住民からの要望が多様化していること、歩道除雪への要望が高まっていることなどについて、講師とディスカッションされた。また、学習会終了後講師を囲んでの懇親会が催された。

(小林俊市幹事 記)

< 報告 >

講演会 雪氷からさぐる地球の過去、そして未来

演題 南極ドームふじ深層コアから過去34万年の気候変化を探る

講師 藤井理行 国立極地研究所北極圏環境研究センターセンター長

日時 10月29日(日) 13:30~14:30

場所 長岡技術科学大学 機械系会議室(4F)

講師の藤井氏が長岡技術科学大学で開かれた国際会議Ice-drilling Technology2000に出席のため長岡に来られた機会をとらえ、現在関心が高まっている地球の環境や気候の問題について講演していただきました。講演では、氷河期と間氷期の繰り返し中では氷河期から間氷期への移行は急激なのに対して、その逆は緩慢な温度変化を示すことや、現在は間氷期の極大の高温期を過ぎて次第に氷河期へ向かう途上であると考えられること、ただその中でも最近100年ほどの急速な温暖化は看過できないこと、また二酸化炭素のみではなくダストが気候に大きな影響を与えていること、さらに気候の変化と火山活動が活発な期間との関係から気候の変化が火山活動を誘発することがあるのではないかと、など最新のドーム富士コアの解析の成果に基づく大変興味深い内容が紹介されました。また、マイナス60にもなる寒さの上に4000mに近い高地での酸素不足という厳しい条件の中でのコア採取作業の様子や基地生活についても、ユーモアをまじえながら多くの写真で紹介されました。公演後の質問では、講演時間内で話しきれなかった南極に先行する北極の温暖化について熱心な討論があり、講演時間を1時間ほど超過した午後3時半まで続きました。

講演会は公開講演という形で長岡市の公民館や博物館を通じて広報していただいたおかげで、学会員以外の一般の参加者も含め40名の参加者を得て有意義なものとなりました。なお、本講演会は急な企画でしたので、ニュースレターでご案内することができませんでしたことをお詫びいたします。

(石坂雅昭 記)

なお、次号のニュースレターは2001年2月10日発行予定です。こちらの原稿は1月20日頃までにお送り下さい。

日本雪氷学会北信越支部ニュースレター

原稿送付・問い合わせ先：小南靖弘，横山宏太郎

〒943-0193 新潟県上越市稲田1-2-1 北陸農業試験場 水田利用部 気象資源研究室
tel.: 0255-26-3234 / Fax: 0255-24-8578 / E-Mail: met@inada.affrc.go.jp

